

第1回鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会 会議録

開催日時 平成19年7月25日(水) 午前10時00分から午前11時20分
開催場所 総合福祉保健センター4階研修室
委員出席者 野村誠剛、松澤武人、和田光誉、三浦弘、猪山紀久子、片平房子、村上正幸、
倉田智子、阿部豊、勝又護(欠席者:伊藤勝、指籠和子、小茂田茂)
(以上敬称略)
事務局出席者 稲生哲彌(クリーン推進課長)、佐山佳明(クリーン推進課計画管理係長)、
松沼恭宏(クリーン推進課主任主事)

1 会議の公開について

「鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会の傍聴に関する基準」に基づき公開する旨確認

2 議事

①会長の選出

A委員:事務局に確認

事務局:慣例に基づき野村委員を推薦

委員一同:賛成

(決定事項)

○会長、野村委員に決定する。

野村会長あいさつ

②副会長の選出

会長:事務局に確認

事務局:慣例に基づき三浦委員を推薦

委員一同:賛成

(決定事項)

○副会長、三浦委員に決定する。

三浦副会長あいさつ

③審議事項「指定ごみ袋の追加について」

・事務局から諮問に関する経緯の説明あり。

B委員:燃やすごみが15%と25%及びプラスチック製容器包装ごみが30%で昭和61年に指定ごみ袋を作ったということだが、その時に大きい袋を何故作らなかったのか。

事務局:自治会連合協議会と協議して指定ごみ袋を作った。その際、小さければごみが出しづらいただろうということで、大きな袋を作らなかったと聞いている。

B委員:大きいごみ袋を作ることのメリット、デメリットは。

事務局:メリットとしては、燃やすごみでは、草刈り等を行ったときなど一度に大量に出る場合に処理しやすい。プラスチック製容器包装ごみでは、週1回

の収集であり、色々なものに使われていることから排出量が多くなっているののでこれに対応できる。

デメリットとしては、排出原単位が増える懸念があるが、傾向的には横ばいであり、旧沼南地区でも45ℓの袋を導入しても増えていない。

総体的に見て、鎌ヶ谷市はごみが少ない側で市民意識も形成されていると考えられる。

C委員：昨年「千葉県廃棄物処理計画」策定に伴うタウンミーティングに参加し、他市の状況が良く分かった。燃やすごみの収集が旧沼南地区で3回、旧柏地区で2回、行政境では旧柏地区住民が旧沼南地区に出しに行っているようだ。回数が多くなるとごみの量も増えるのでは。主婦としては、週3回出せるのなら3回出さないといけないといった強迫観念に駆られる。袋を大きくすることで、収集回数を減らすのか。

事務局：収集回数を減らすことは考えていない。沼南町と柏市の合併に伴い燃やすごみの収集回数を2回に減らす提案を受けているが、1回あたりの収集量が1.5倍となることから増車の懸念があり財政的に厳しいものがある。また、週3回の収集は排出側の選択肢が広がる。例えば夏場などは厨芥類を置いておきたくはないだろうし、週2回では選択肢を狭める結果となる。

D委員：松戸市は指定ごみ袋はないが問題は生じていないが、鎌ヶ谷市はきちんとしている。

袋が大きくなると価格はどうなるのか。

事務局：材料費などの関係で代金は上がる。業者と打合せをしたわけではないので実際にどうなるのかは不明であるが。

それよりも販売店での置き場に関する問題がある。3種類の指定ごみ袋が5種類になるので。

D委員：会社の前にごみステーションがあり、プラスチック製容器包装ごみが風で散乱していることがある。大きくなるともっと飛びやすくなるのでは。そのような問題は考えていないか。

事務局：カラスよけネットの活用などここでの対応をお願いしたい。特に風による散乱の苦情はない。

E委員：積載効率はどうのように考えているか。大きな袋になればそれだけ排出される容量が大きくなる。どのように考えているか。

事務局：プレスパッカー等で集めていると、一杯になってくるとパンパン破裂音が聞こえてくる。中で袋がつぶれているということなので、特に問題はないと思われる。また他市でも収集していることから問題はないと考えている。

F委員：市民の要望に基づいて諮問と言うことだが、利便性だけか。大きさ以外の要望はないのか。

事務局：他にはカラス対策の要望がある。カラスは目が良いことから、臭いではなく中身を見て突く。そこで、中を見ることが出来ないように特殊な材料を混ぜた黄色い袋があるが高価となる。マンションなどカラス対策が取られたステーションでは不要なことから安い従来の袋と、高い袋を販売したとき、一般のステーションに安い袋で出されたときは結局突かれ、黄色い袋も突かれる可能性がある。

また、他に切れにくくして欲しいという要望がある。切れにくくすると、厚くなり価格が高くなることのほか、処理場で破袋しづらくなってしまう。

C委員：他の市では、カラス対策で黄色が有効と聞いている。黄色いネットが効果的である。

F委員：大きくすることにより、ごみを処理する側でのメリットはないと考えるのか。市民の要望によるものなのか。

事務局：家族構成、家族の少ない世帯などでは大きい袋が必要とは言えないので、全てに当てはまるかどうか、ただし大きい袋に関する要望はある。

D委員：原単位の表を見ると、40から45ℓの袋がある他市では、12年度から減ってきている。袋の大きさが影響しているのだろうか。

事務局：原単位が減ってきていることと袋の大きさを関連づけることは難しい。プラスチック製容器包装ごみ等の問題もあるし、船橋市などは可燃ごみとして収集している。

G委員：大きい袋を作ることの最大のメリットは。

事務局：利便性の確保です。

C委員：燃やすごみ、プラスチック製容器包装ごみ両方に大きい袋を作るのか、3種類から5種類になるのか。

H委員：15ℓの袋は使いづらい。沢山使われているのか。

事務局：調べたことがないので感覚的にはなるが、25ℓが多いように考えられる。

D委員：ステーションが会社の前にあるが、15ℓの袋は見たことがない。

H委員：2人世帯なので25ℓの袋で週1回出すぐらいなのだが、15ℓの袋は使いづらくて利用しない。

I委員：燃やすごみの袋、プラスチック製容器包装ごみの袋、40ℓを作るのですか、それとも45ℓの袋を作るのですか。

事務局：それを皆さんで議論していただきたい。

会長：両方45ℓであったり、片方は40ℓ、大きい袋は作らないなど色々な考えがあると思う。事務局はどう考えているか。

事務局：とりあえず、両方同じ大きさでお願いしたい。燃やすごみが40ℓでプラスチック製容器包装ごみが45ℓなどとなると理由付けが難しい。

C委員：プラスチック製容器包装ごみは週1回なので大きくした方が良いのでは。

F委員：市民は近隣の状況を見て要望しているのでは。市川市、船橋市、白井市など45ℓである。だから45ℓでどうですか。

B委員：45ℓで統一した方が良いのでは。

D委員：大きくした方が捨てる回数が減るのではないだろうか。よって45ℓの方が良い。

会長：答申としては、「燃やすごみとプラスチック製容器包装ごみの大きいごみ袋を作ることに同意します。大きさは45ℓとする」でどうか。

C委員：漬け物などを作ったときに出る野菜クズなどは、25ℓの袋でも一杯になると重くて運べない。45ℓになったとき切れないだろうか。

事務局：45ℓで持ちきれないときは小さい袋を使っていただいで出してください。収集に関しては、若い人たちが収集しているので問題はないと考えている。強度については、切れないようそれなりの強度を持たせたい。

C委員：プラスチック製容器包装ごみは軽いので問題はないが、燃やすごみは重いので、特に会社はコストの問題があったらつり詰め込むので。

事務局：事業者については、一般のステーションに出すことはまずいので指導したい。ただ、ステーションに出してはいけないことを知らないで出している場合もあると思う。町の文房具屋さんなど、ほんの少しなため家庭から出

るごみに混ぜて出したりなど。飲食店などでは知ってて出したりしている所もあるので指導したい。ステーションは生活系のごみである。

45ℓの袋で燃やすごみだとだいたい20kgぐらいになる。

G委員：20kgだと持ちきれないのでは、また切れるのではないのか。

小さい袋はなくしてよいのでは。利用しているところをまず見ない。

事務局：小さい袋をなくすことは考えていない。人数の少ない世帯などでは利用するだろうし需要がないとは言えない。今回は追加のみで考えている。

会 長：「燃やすごみとプラスチック製容器包装ごみの大きいごみ袋を作ることとし、大きさは45ℓとする」として答申する。事務局、答申書の用意をお願いします。

答申書については、みんなで集まって市長に渡すのも大変なので、私が代表で渡すことでいいでしょうか。

各委員：同意

会 長：事務局手配をお願いします。

(決定事項)

○指定ごみ袋を追加する。

種類は、燃やすごみ及びプラスチック製容器包装ごみ
大きさはそれぞれ45ℓとする。

④その他

議 長：その他事務局あるか。

事務局：会議録署名人を、基準により松澤委員にお願いしたい。

会 長：松澤委員をお願いします。

本日の会議はこれにて終了します。ご協力ありがとうございました。

以 上

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成19年8月8日

氏 名 松澤 武人